

## 東部動物愛護管理センター



〒813-0023 福岡市東区蒲田5-10-1  
TEL 691-0131 FAX 691-0132

## 家庭動物啓発センター



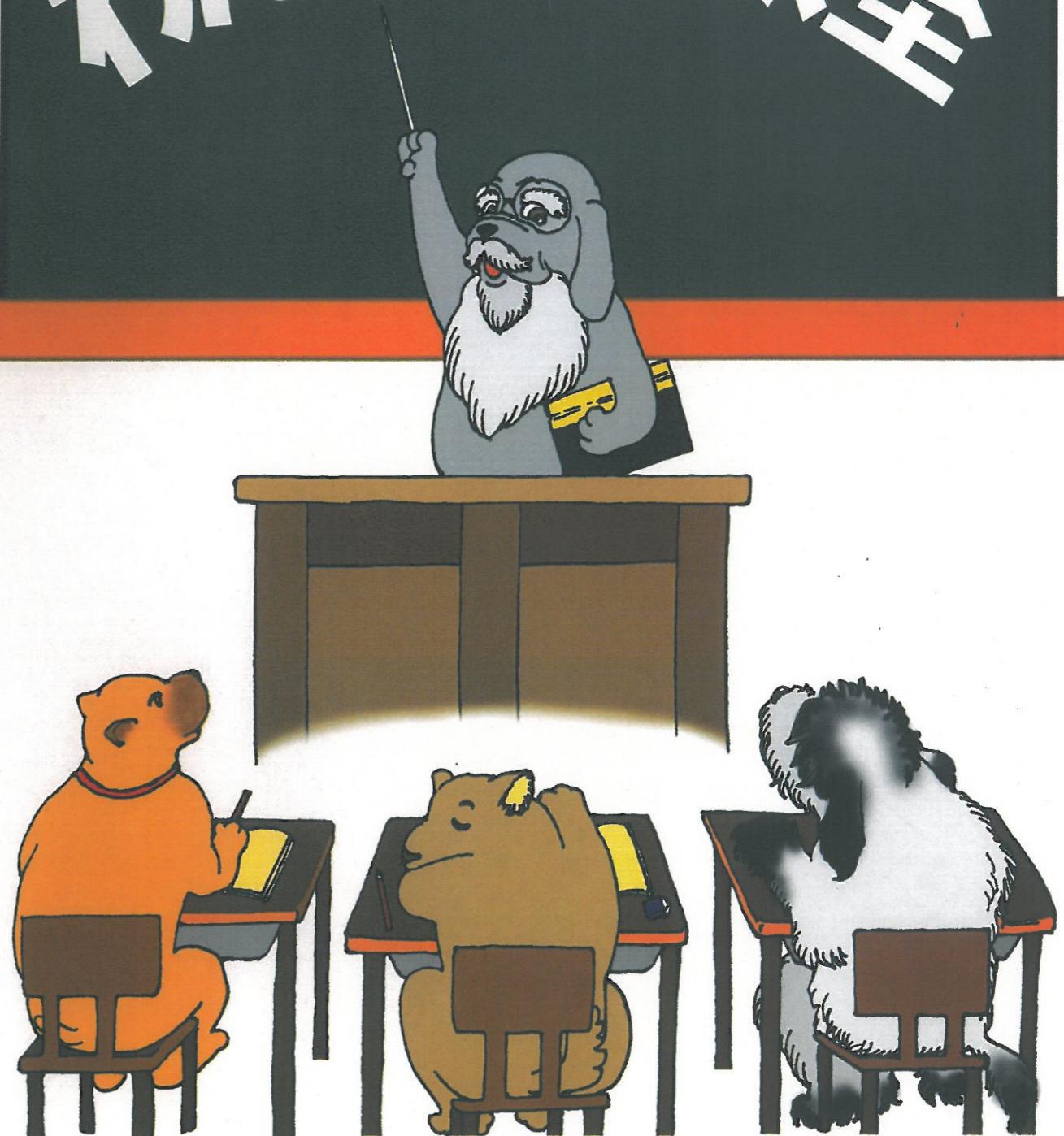
〒819-0005 福岡市西区内浜1-4-22  
TEL 891-1231 FAX 891-1259

発行：平成16年8月  
福岡市動物愛護管理センター  
TEL 691-0131 (東部動物愛護管理センター)  
TEL 891-1231 (家庭動物啓発センター)

印刷:川本印刷株式会社

R100  
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

# わんちゃん教室



福岡市動物愛護管理センター



## 飼い主さんへ、お願ひです

愛犬に人間社会のルールを教えるあなたも  
ルールをまもってください。

放し飼いをしない

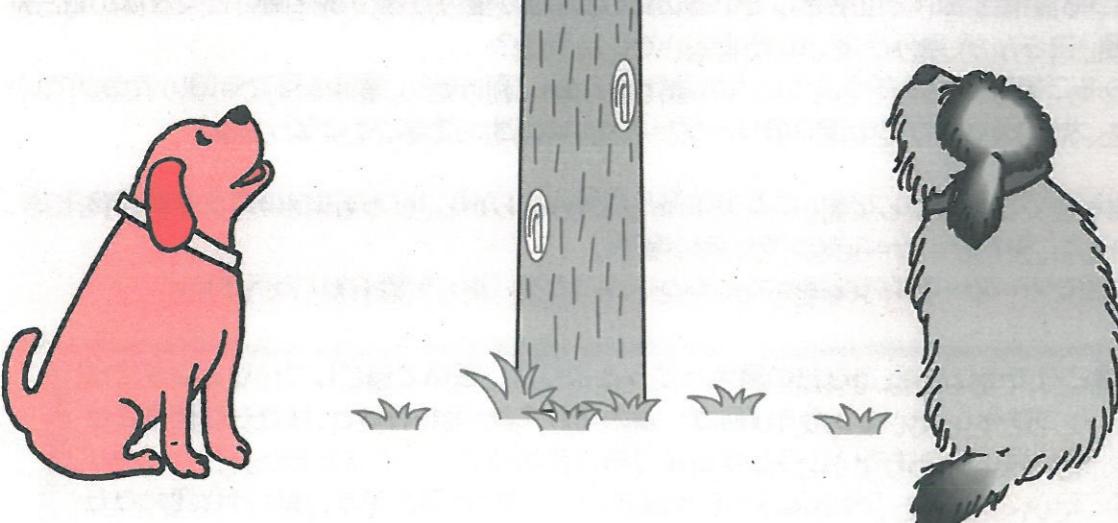
登録、狂犬病の予防注射

散歩中のフンのしまつ

虐待したり、捨てたりしない

法律を守ることや、モラルの向上が  
ペットを飼うことに対して社会に於いての  
理解を得ることとなります。

不妊・去勢手術をしましよう。不幸な命を  
つくらないばかりでなく、しつけをする上  
でもメリットがあります。



## もくじ

しつけって何なの	1
しつけの大切さをもっとしってほしい	1
しつけを始める時期について	2
トイレの覚えさせ方	2
しつけを始める前に知っておこう	2
犬の習性について	2
アルファーシンドロームとは	3
飼い主がリーダーになるための普段からの接しかた	4
問題行動に対するしつけ	7
無駄吠えをさせないためのしつけ	7
咬みつきをさせないためのしつけ	8
引っ張りをさせないためのしつけ	10
飛びつきをさせないためのしつけ	11
主従関係を築くための基本的な訓練	11
アイコンタクト	11
スフレ	12
フセ	12
マテ	12
コイ	13
ツケ	13
子供に教える犬への接し方	14
まとめ	14
飼い主さんへお願ひです	15

## しつけって何なの？

★人間社会の中で《犬》が共に生活していくために最低限必要な【ルール・マナー】を学ばせることです。

★《飼い主》と《犬》が、よりよい関係を築くためには必要です。

飼い主さんが基本的なしつけを、《する人》か《しない人》かによって、愛犬が人間社会で生きていくこれらの10年または15年が、【楽しく過ごせる】のか【苦痛を伴う】ものかに分かれてしまう。

## しつけの大切さをもっと知ってほしい！

### 自然界(野性)の犬は生きてゆくためにいろんな経験をします

《危険なこと》や、《狩りをする時に群れの中での協調性》など生きてゆくためには、多くの学習をします。

人間社会でもいろんな【ルール・マナー】を学習していかなければ、危険などに遭うことになります。ルールを身につけている犬は、誰からも愛されますが、ルールを身につけてない犬は、わがままな、あるいは凶暴な犬になってしまい、飼い主も手に負えず、最後まで飼いきれなくなることも残念ながら多いのが現状です。

### どんな動物でもペットとして迎えたからには、最後まで面倒を見る義務があります

実際にしつけを怠った為、さまざまな問題行為により飼い続ける事が困難となり、当センターへ処分を依頼される飼主が後を絶ちません。

犬にしつけをすることによって、『こんなかわいいこは、絶対手離したくはないよ。』と言いたくなるくらいに素晴らしい愛犬を育てることが出来るのです。

### 愛犬のために必要です

しつけをする事によって危険なことや不快な経験をせずに済みます。

#### ●道路での交通事故

●拾い食いによる嘔吐、腹痛

●吠えたり飛びついたりして、人から嫌われる

●散歩中の引っ張りなどで飼い主が、散歩を嫌がるようになる。

(これは犬にとっても人間にとっても不幸です)

### 社会のために必要です

●無駄吠えするために近隣からの苦情

●咬みぐせがあるため、事故(事件)が心配

●他の犬に吠えかかる

## 子供に教える犬への接し方

### 飼い主のいない犬と出会ったとき

- 急に走りださない。
- 大声を出さない。
- 犬の目を見ないようにする。
- じっとしたまま動かさずに、犬が通り過ぎるのを待つ。

### 他人の家の犬と仲良くなる方法

- 飼い主さんに『触ってもいいですか？』と必ず聞く。
- 近づく時、斜め前方から少し姿勢をかがめ気味にします。
- 軽く手を握って手の甲側を犬の鼻にゆっくりと近づけ、犬に自分のにおいをかがせます。
- なめたりしてたら、そのまま手の甲で首のあたりを撫でます。  
(犬が唸ったり、しっぽをまるめ込んだりしていたら絶対にさわらない)

## まどめ

しつけや基本的な訓練は犬の自発性を促す方法です。犬が喜んでそのしつけと訓練をしたくなるように導いてあげましょう。ちゃんと出来るようになるまで、繰り返し気長にやっていくことが大切です。

決して強制的なしつけや訓練ではありませんので、出来なくても叱らないで下さい。もし、しつけや訓練中に犬が失敗したら、無視するだけでいいのです。要は【それは違うんだよ】ということを伝えればいいのです。叱るのは、悪いことをしたときだけです。

しつけや訓練の最後は必ず誉めて終わりましょう。【成功の積み重ね】が犬に自信をつけさせます。失敗したまま、叱られたままでは、犬が次のしつけや訓練を喜んでしなくなります。

●『いつも愛情を注いで世話をしているのに、なかなか愛犬が言う事を聞いてくれない』と言う飼い主さんが、意外と多いのではないでしょうか？  
いつもご機嫌をうかがうように犬の顔を見て話し続けたり、要求は何でも聞いてあげていると、犬に『あなたがこの群れのリーダーですよ』と言つてることになります。

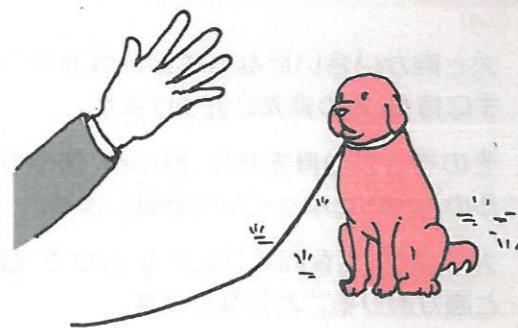
愛情を注ぐことは決して悪いことではありません。しかし、いつも洪水のような愛情を注ぎ続けると、犬がリーダーになってしまいます。

犬は常にリーダーのイスを狙っているということを、決して忘れないで下さい。

●これであなたは、あなたの愛犬とずっとよりよい関係で過ごしていけるはずです。  
しつけをしていくうえで、『何が一番大切か？』と問われると、私たちは迷うことなく犬をしつけていこうとするよりも、『まず自分が犬に対する接し方を学習していくこと』と、『犬の気持ちを理解することだ』と答えます。接し方を変えただけで犬が態度を【コロッ】と変えたという経験は、一度や二度ではないからです。

## (第2ステップ) 必ずリード(引き綱)を持ったままで行って下さい。

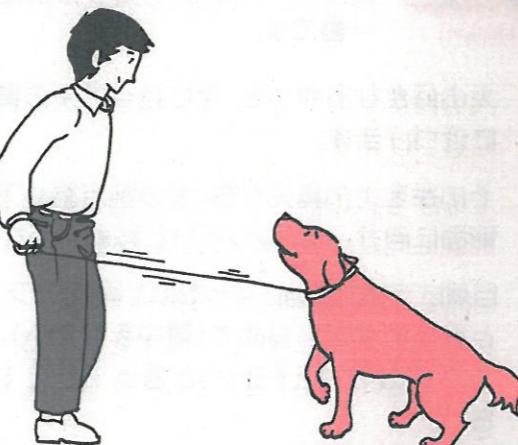
- 1 第1ステップが完全に出来るようになつたら、引き綱を持って今度は犬と向き合つたまま、1~1.5メートルぐらい犬から離れる。(この時、手のひらは犬の顔の前に突きだしてあく。)
- 2 そのままゆっくりと犬の右側か前に戻って、ちゃんと待っていたことをしっかりと誉めましょう。



●マテの訓練は、慣れてくると徐々に距離と時間を少しずつ長くしていくことができます。ここでも注意したいのは、犬が失敗したからといって叱りつけてはいけません。むしろ、失敗したときには犬が確実に成功できる距離と時間まで戻って、**誉めてあげられる部分を見つけること**の方が、より成功への近道となるでしょう。

**コイ**  
(Come) 危険な所などへ行かせないための呼び戻しとして役立ちます。【飼い主(リーダー)】の所へ行けばいつもいいことや嬉しいことがあるんだな】と学ばせてていきましょう。

- 1 リードを持ったまま『マテ』と言い1メートルぐらい離れてみます。この時はまだ犬と向かい合ってマテの状態を保ったままでです。
- 2 『コイ』と言ってリードを少し強く自分の方に引いて下さい。
- 3 引かれたショックで寄ってきた犬を誉めてから、すかさず『ヨシ』と言っておやつを与えて下さい。



**スフレとフセ** で褒美としておやつを使用するのですが、**一日の食事量の10%を越えない**ようにしておきましょう。

そしておやつで出来るようになってきたら、少しずつ量を減らしていき、最終的には誉め言葉だけで出来るようになって下さい。そうしないとおやつが無いときはしなくなるからです。

**ツケ** 散歩時や通常の歩行時に役立ちます。これができれば  
(Heel) 散歩時の引張り等をコントロールできます。

- 1 犬を自分の左側につけて、止まった状態から軽く左ももをたたきながら『ツケ』と言歩き出します。
- 2 そのままちゃんとついてきて飼主の顔をチラチラ見るようなら前記のアイコンタクトを入れながら誉めてあげましょう。



## しつけを始める時期について

基本的なしつけは、【生後2ヶ月位】から始めるのがよいでしょう。なぜなら、犬はこの時期から《思考力》が発達してきて、《判断行動》ができるようになるからです。生後7~8ヶ月で、一通りのしつけが身に付くでしょう。子犬の頃にしつけを一通り教えたからといって、その後しつけをしなくてよいという訳ではありません。しつけは、あなたの愛犬が一生を終えるまで続けることが大切です。

## トイレの覚えさせ方

トイレのスペース決定は、あなたが犬を迎えてすぐに始めて下さい。自然界で育つ犬のほとんどは、自分の寝る場所を排泄物でよごさないような習性をもっています。

そこで一番先に飼い主さんがしなければならないことは、【犬が安心して寝られる場所】を与えてあげることです。

初期のころは寝場所全体に新聞紙またはトイレシーツなどをしきつめておけば、自然とのスペースに排泄物をするようになります。そして、排泄物などを片づけるときは、新聞紙やトイレシーツを全部取り替えてしまわないで、排泄物の臭いのついている部分を少し残してあげてあくと、そのスペースがトイレとなります。

トイレの覚えさせ方は、**誉めることがポイントです**。トイレの場所で用を足しはじめたらよく誉めてください。他の場所で用を足しても叱らないで下さい、【オシッコ・ウンチが、いけないことだ】と犬が勘違いするようになり、我慢して膀胱炎になったり隠れて用を足すようになります。

トイレの号令をあらかじめ家族で決めておきましょう。用を足している最中にその号令をかけることによって、トイレの合図を覚えます。

## しつけを始める前に知っておこう！

### 犬の習性について

犬の祖先はオオカミであるといわれています。

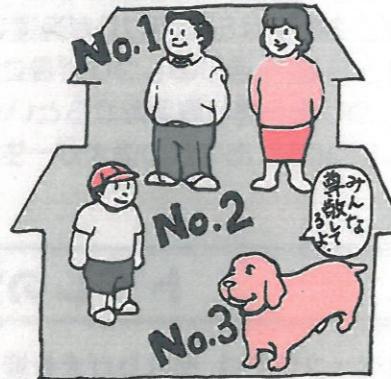
その昔からオオカミは群れをつくって自然界を生き抜いてきました。群れは、縦社会になっています。その中には必ずボスがいて1頭1頭に順番が付いています。そして群れにおいては、**上位の者に対して服従する**。一方で、**下位の者に対してはどんなことがあろうと従わない**というはっきりとした行動をとります。犬はそういう本能を人に飼われるようになった今日でも持ちつづけています。

犬は、『頼れるリーダー』『充分な食事』『安心できる場所』を求めています。

家庭犬の場合、『自分の群れは家族(飼い主)全員だ』というように考えています。

家族全員が犬にとってのリーダーになって下さい。例えばあなたの家族が3人いるなら、犬は4番目と言うように順位づけしておかなければなりません。

ところが、犬はリーダーが頼りなかったり、群れを統制させる力がないと思うと、いつでも自分がその群れのリーダーになろうとする習性をもっています。



### アルファーシンドロームとは？

飼い主のあなたが頼りないような行動をとると、犬は、「自分の群れにはリーダーはないんだ」と認識して、自分がリーダーになってやろうとして飼い主に喰ったり、噛みついたりするようになります。このように犬が飼い主を服従させようとする状態を【権勢症候群＝アルファーシンドローム】といいます。

### ☆犬がアルファーシンドロームになりやすくなる飼い主さんの 良くない行動

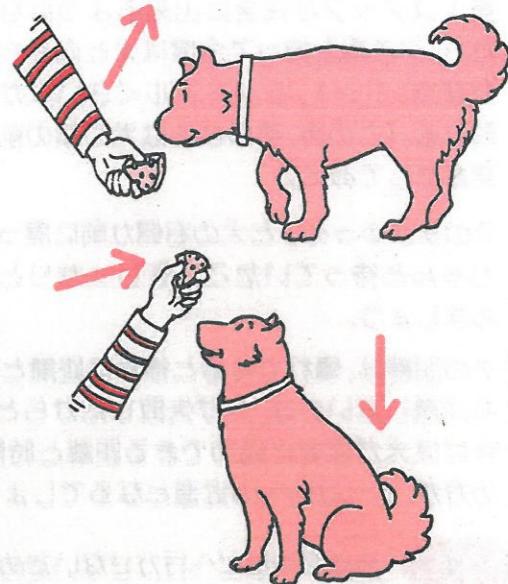
犬の行動	飼い主の行動
エサをくれと鳴く(吠える)	お腹がすいたの一と言ってすぐにエサを持っていく
散歩に連れてけど鳴く(吠える)	すぐに連れていく
触ってほしいとすり寄る	すぐに撫でるまたは、ブラッシングする
散歩の時引っ張る	引っ張られて犬についていく
あま噛みをする	そのまま好き放題にさせている
ソファーやベッドの上に乗っている	よりも低い位置に座ったり寝たりする



スフレ (オスフリ)いろいろな状況下での、冷静さを養うのに役立ちます。

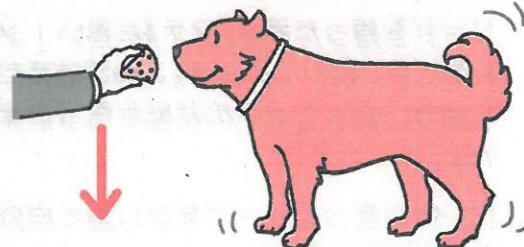
(Sit)

- 1 犬と向かい合いになって好きなおやつを手に持ち、犬の鼻先に近づけます。
- 2 その手を犬の鼻先から、目の前、頭のうしろの方向へとゆっくりと移動します。
- 3 犬の鼻が、上を向くことになるので、自然と腰があります。
- 4 犬の腰があるのと同時に『スフレ』と言ってすぐに誉めて(あごの下をなでる)。それからおやつを『ヨシ』と言って与えて下さい。



フセ 服従心と冷静さを養うのに役立ちます。また長時間待たせる場合には、これが一番です。

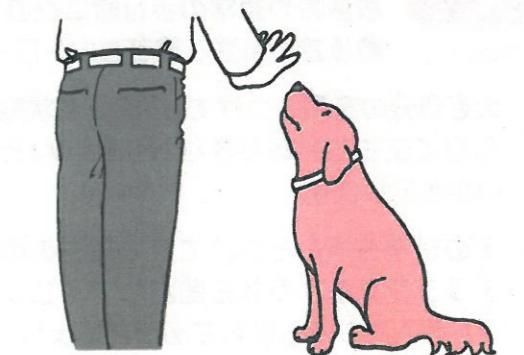
- (Down)
- 1 犬の好きなおやつを、手を持って犬の鼻先に近づけます。
  - 2 その手を犬の鼻先から、犬の前方斜め下の地面に向かって、ゆっくりと移動します。
  - 3 自然にフセの姿勢になったのと同時に『フセ』と言ってすぐに誉めて(背中をなでる)。それからおやつを『ヨシ』と言って与えて下さい。



マテ 服従心と冷静さを養うのに役立ちます。散歩中など道路への急な飛び出しや、知らない人や犬が近づいてきたときに、飼い主が安心していられます。

### (第1ステップ)

- 1 スフレまたはフセをさせてから、飼い主さんが手のひらを犬の顔の前に出す。
- 2 次に『マテ』と言って一瞬でも動かずにそのままいたら、誉めます。



### 飛びつきをさせないためのしつけ

犬は嬉しくて飛びつくことがほとんどなのですが、もしも相手が子供やお年寄りだったら、ケガをさせることになるでしょう。または犬を嫌いな人だったら、飛びつかれることはとても恐いことかもしれません。泥だらけの足で飛びつかれてしまっては、飼い主のあなたも困るはずです。

日頃から犬に飛びつかれても許しているのに、絶対に汚されたくない服のときは、『今日はダメよ』と叫んでも、犬は『どうして？ どうして？ いつもはいいのに？』と理解できず『この人信用できない。リーダー失格！』と考えるでしょう。

犬は嬉しくて飛びつくるので、叱るよりも無視することの方がより効果があります。そして静かになったらすぐに声をかけて、たっぷり讃めて下さい。

『飛びつくと人には相手にしてもらえないんだ』ということを学ばせればよいのです。

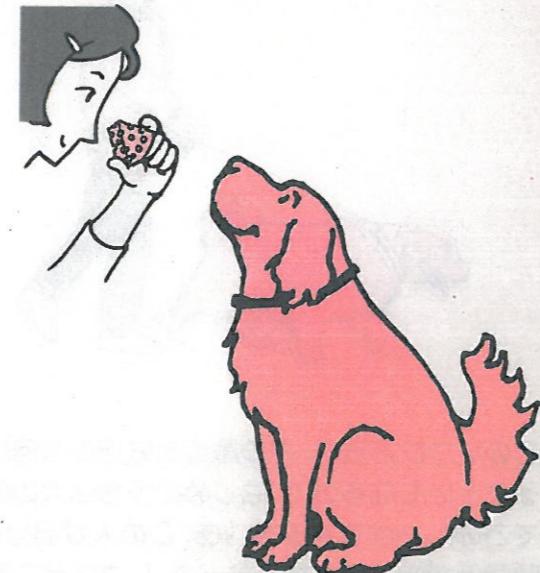
### 主従関係を築くための基本的な訓練

#### アイコンタクト スフレ・フセ・マテ・コイ・ツケ

5つのコマンド（号令）

アイコンタクト 今後しつけを成功させていくうえで、集中力を養うのに効果的な訓練。  
犬の名前を呼んで目と目を合わせます。

- 1 まず最初に、おやつなどを手に持って注意をひきます。
- 2 そのまま、おやつを犬の鼻先にもっていく。このときはまだ与えてはいけません。
- 3 おやつを手にもったままゆっくりと、犬の鼻先から自分の鼻先または眉間にと移動します。
- 4 目と目が合ったら少しあおげさに讃めてください。
- 5 訳めたらあと『ヨシ』と言っておやつを与えましょう。



これを繰り返し行うことによって、犬は『ああ、人間の目を見れば何かいいことがあるんだな』と学びます。

前項の表のような行動を飼い主がいつもとっていると犬のほうがリーダーになるでしょう。つまり人が犬と同等であるような接し方をするようになってしまってはいけません。ましてや人が犬に命令されるような事態は、絶対に避けて下さい。

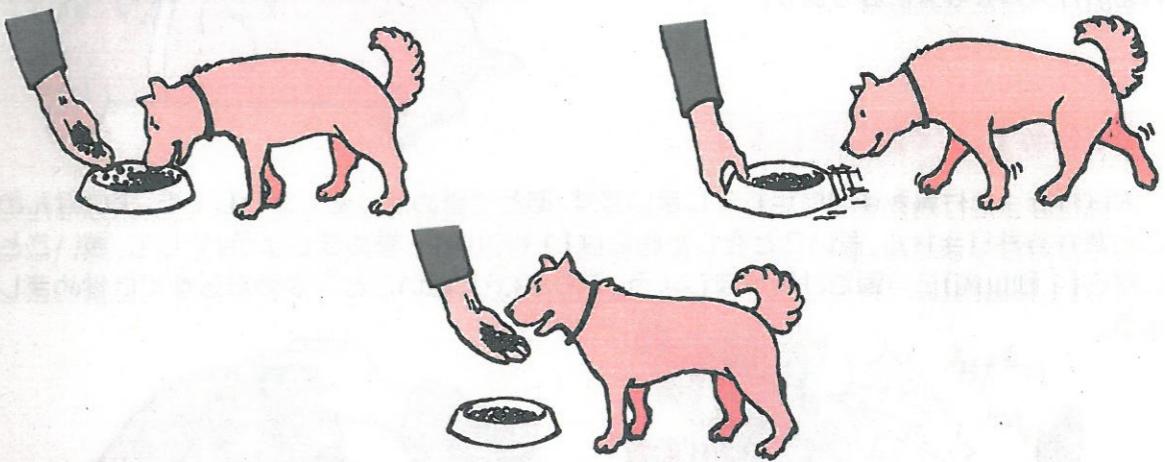
犬は、尊敬できるリーダーとめぐりあえたら【心底喜んで服従する】動物なのです。そして尊敬できるリーダーから讃められるということは、犬にとって最高の褒美となるのです。

それでは、これからそのリーダーになるための接し方を詳しく説明していきましょう。

### 飼い主がリーダーになるための普段からの接しかた

#### 犬の食事中に食器を動かしましょう

子犬の頃から手でエサをあげたり、食器の中にいつもよりおいしいエサを手で入れたり、食器を動かしたりして、『人の手というものは信用していていいのだ』『食器を動かされても取り上げられないのだ』ということを学ばせてていきましょう。



#### 食事を人間と同時にとらせないようにしましょう

群れにおいては、獲物を上位の者が食べ終わってから下位の者が食べるという行動をとります。犬は後まわしで良いのです。



#### 食器はすぐに片づけましょう

人間から食べ物をもらっていることを自覚させるため、餌を食べ終わったらすぐに食器を片づけて下さい。また、途中で食べ残しても片づけるようにしましょう。

### 家族でしつけの言葉を統一しておきましょう

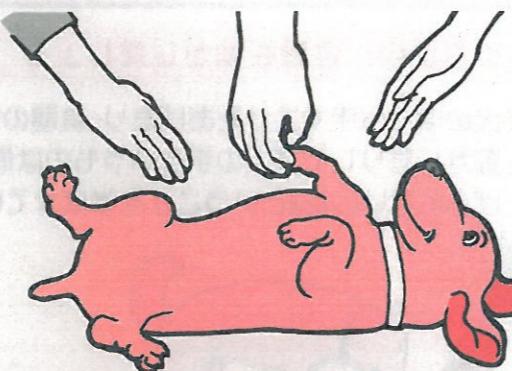
誉める言葉、叱る言葉を決めましょう。犬が覚えやすいように短くはっきりとした言葉がよいでしょう。(『グッド』・『いい子』)や(『ノー』・『ダメ』)など。

### 家族でルールを決めましょう

家族全員が【良いことはいつも良い、悪いことはいつも悪い】と決めておいて下さい。あいまいな態度では犬が混乱します。

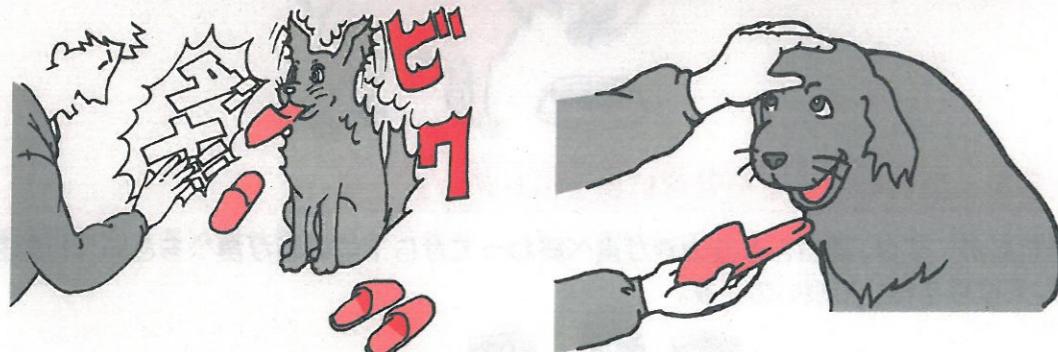
### 体中どこでも触りましょう

子犬の頃から体中どこでも触りましょう。耳・鼻・口・しっぽ・指先いろいろなところを触りましょう。家族以外の人にも触ってもらいましょう。『人間は恐くないんだな』と犬が覚え、人に触られるのが大好きな犬になります。



### すぐ誉めて、すぐ叱りましょう

犬は行なった行為をすぐに忘れてします。あとで誉めたり叱ったりしても、犬はなんのことだか分かりません。良いことをした時には【1秒以内】に誉めましょう。そして、悪いことしたら【1秒以内】に一瞬だけ叱りましょう。そのかわり、悪いことをやめたらすぐに誉めましょう。



### 犬の名前を呼ぶのは、犬が喜ぶ時だけにしましょう

叱る時にいつも犬の名前を呼んでいると、【名前を呼ばれたときはいいことはないんだ】ということを覚えてしまいます。そして、もしも散歩中に犬が離れてしまつたりしたときに、名前を呼んでも呼び戻すことができなくなってしまいます。

名前を呼んで犬が振り向いたら、必ず誉めるようにしておきましょう。

### 人間のベッドやソファーには上がらせないようにしましょう

犬は群れにおいて上位の者が見晴らしが良い所を陣取るという行動をとります。室内で飼うのなら犬は人よりも低い位置にいつでも居せるようにしておかなければいけません。

### 引っ張りをさせないためのしつけ

ボスは群れの先頭を歩く習性をもっています。散歩の時に飼い主が引っ張られるような状態は、完全に【飼い主よりも犬のほうがボス的存在になっている】と思ったほうがよいでしょう。このような状況になった結果、飼い主が転んだり、周囲の人などに迷惑をかけることになるでしょう。

【先頭を歩く】ということは、群れの安全や狩りのときの群れの統制を司っていかなければならぬことであり、ボス犬にとっては非常にストレスとなるものです。

それよりも、飼い主がリーダーシップをとって歩く方が、習性から考えてみても、犬にしてみれば楽なことなのです。

リーダーシップをとる方法は、犬が人間よりも前へ出ることを決して許さないことです。これをリーダーウォークといいます。

### リーダーウォークのやり方

- 1 犬が前へ出ようとしたら、すかさず犬が行きたい方向とは逆に回れ右をして、方向転換を必ずするようにする。また、犬が左に行こうとしたら逆の右へと行くようにする。(方向転換をする瞬間に、一瞬だけ強めにリードを引く)
- 2 犬がついてきたら、すぐに誉めましょう。(エサなど与えてもよいでしょう)  
この人についていけば、【誉められる】【エサがもらえる】と学ぶはずです。



●このしつけ方法は、犬の意志とは逆の方向に行くということであり、リードでショックを与えることにもなるので、はじめのうちは犬の顔を見ないで歩いていきましょう。もし顔を見続けてこのしつけをすると、『あ、この人が自分に意地悪をしてるんだ』と勘違いされてしまい、信頼関係が成り立たなくなってしまって、しつけどころではなくなります。

●犬がちゃんとついて来ているときは、リード(引き綱)は常に垂らしておく。  
犬は引く力に対して反抗する習性をもっています。

## 咬む《攻撃行動》 自発的な服従行動を促すしつけ方法

犬が咬み癖を習慣化してしまう原因の多くは、主従関係における飼い主の【主導的な接し方の欠如】と【スキンシップの減少】がほとんどです。

犬は群れの中にリーダーがないことを察知すると、その群れを統一させるために、自分がリーダーになろうとします。このような支配的攻撃行動は、群れの秩序を守るための、ボスとしての正常な攻撃行動です。このような行動は、生後1年～3年に多く発症しています。

### 成犬の咬み癖

子犬の頃には咬み癖なんか無かったのに、ある日突然咬みつくようになったというような事例が成犬にはまれにあります。成犬になって突然咬みつくようになった場合には、まず、健康状態は良好か確かめて下さい。どこか痛いところがあって、そこを触られたためか、何か特別な状況が犬に起きたためではないか、と考えていいでしょう。

**事例その1** 飼い主が遊び心で棒や掃除機などで、いたずらしてしまったために、棒や掃除機を出しただけで、咬みついてきた。



犬は条件反射によって行動する動物です。過去に嫌な体験をしたときと同じ条件になった場合に、恐怖心から咬みつくことがあります。

犬に冗談やいたずらは禁物です。

**事例その2** 犬がエサを食べている最中にもかかわらず、エサが入っている器を取り上げる意地悪をしていたために、ある日手を出しただけで咬みついてきた。



給餌の最中に飼い主が咬まれた。という事故が非常に多いようです。飼い主さんからしてみれば、『もう少しエサをあげようと思っただけなのに』という心境でしょう。

自然界では、一旦獲物を自分の物にしたならば下位の者には絶対に譲りません。横取りしようとする者に対して攻撃してきます。これは厳しい自然界で生きてゆくための本能です。このようなことにならないためにも、普段からエサをやるときには、飼い主さんが手であげたり、食べているエサよりももっとおいしいエサを手であげたりして、徐々に人間の手というものは、自分にとって決して害はないものだと学ばせる事が大切です。

### 危ない！

もしもあなたの犬が既に成犬になっていて、本気で咬みつく《攻撃行動》ようになっているならば、間違った方法で矯正を続けてはいけません。さらに事態は悪化し非常に危険な状況になるからです。

一日でも早く犬の訓練所又は当センターに、一度相談したほうがよいでしょう。

## 犬が吠えている時は無視(愛情の遮断)をしましょう

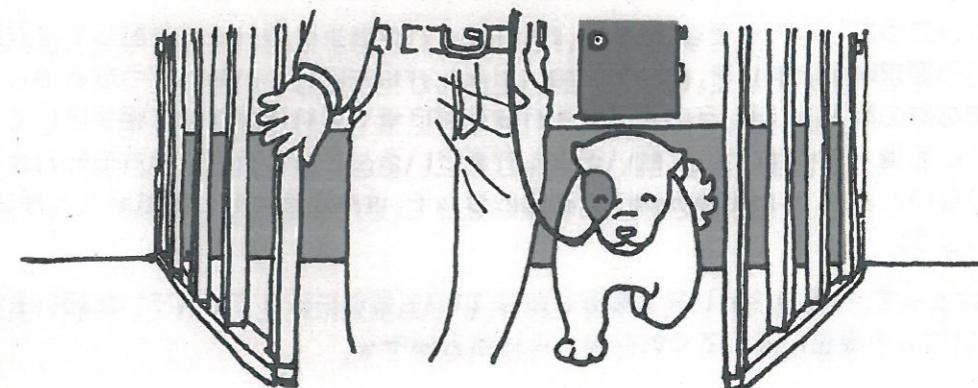
エサをくれ、散歩に連れていく、と言って吠えているときは、すぐにはその要求には応えないようにしましょう。

(詳しくは無駄吠えをさせないためのしつけへ…7ページ)



## 玄関や門扉の出入りは家族が先に通るようにしましょう

自然界では、テリトリー範囲外に群れが出るときは、リーダーが先に移動します。



## 散歩の時、犬を先に歩かせない

群れの中では、ボス犬が先頭を歩きます。人間が前を歩きましょう。

(詳しくは、引っ張りをさせないためのしつけへ…10ページ)

## 問題行動に対するしつけ

### 無駄吠えをさせないためのしつけ

無駄吠えとは人間が勝手にそう呼んでいることであり、犬が吠えるのには理由があります。警戒、要求、悲しみ、喜び、など感情の表れます。無駄吠えをやめさせるにはそれらの理由を一つ一つ取り除くことがしつけとなります。

### 警戒吠え

犬の習性の一つに【縛張り(テリトリー)防衛】があります。野生の犬は自分的生活圏に近づく者、または進入してくる者に対して警戒して吠えるという行動をとります。

家庭犬の場合には、その生活圏が家の敷地内であることが多いです。『広ければそれだけ自由でいいんじゃない』『にぎやかな方が寂しくなくていいんじゃない』と思って敷地内で放し飼いにしたり、通りに面した所につないだりしていませんか？

しかし犬の気持ちになって考えてみれば、広ければ広いほど自分の守るべきエリアが広がることになりますし、【人通り】、【犬通り】が多ければそれだけ敵が増えストレスも多く感じるのは犬にとって正常なことなのです。

犬の生活圏はなるべく狭く、【人通り】、【犬通り】が見えない静かな方がむだ吠えの原因も少なくなり、落ち着けて安心できるでしょう。

### 要求吠え

犬はけっこうあしゃべりです。例えば、『エサをくれ』『散歩に連れてけ』『触ってよ』などなど。

こういう要求吠えに対して、毎回毎回飼い主さんが相手にしていたらどうなるでしょう。たちまちあなたの愛犬は、『あ、この人は吠えればすぐに来てくれる』『すぐに相手してくれる』ということを覚えてしまいます。飼い主さんが家にいるときはそれでいいかも知れませんが、もしもいないときは、一日中鳴き続ける状態になって、近所迷惑となり無駄吠えと呼ばれてしまうでしょう。

実は犬にとって、一番のストレスとなるものは、いつも要求に応えてくれていた飼い主さんが、ある日いつもの要求に応えてくれなかつた場合なのです。

このようなことにあなたの愛犬がならないように、日頃から吠えている最中には、決して相手にしないことです。そして吠えるのをやめたらすぐに誉めてあげて、要求に応えてあげるようにしてあげて下さい。

とにかく犬を冷静にさせて、『吠えやめれば誉められるのだ』『吠えている時は相手にしてもうれないのだ』ということを覚えさせましょう。

### 喜び・悲しみ吠え

犬に留守番をさせてみましょう。『いってきます』『お留守番しててね』と言ってませんか？『いってきます』は『あいてけぼり』、『留守番』は『ひとりぼっちになるんだ』と犬は思うことがあります。また、帰宅してすぐに『ただいま』を犬に言ってしまうと、犬が偉くなってしまうことがあります。優しくかけたつもりの言葉が、逆に犬に悲しい想いをさせたり、誤解を与えたりします。『いってきます』『お留守番』は必要ありません。『ただいま』を言う場合は帰宅後、しばらく犬を無視して用事を済ませた後からがいいでしょう。

### 夜鳴き

子犬の時に寂しがってクンクン鳴く夜鳴きは、無駄吠えとは違います。そういうときには、無理なしつけをするよりも、犬用のぬいぐるみなどを与えたりする方法があります。クンクン鳴き続けても、放っておいてください。かわいそうだからといって、撫でたりしてしまっては子犬はますますひとりで寝られなくなってしまいます。

時計やラジオなど音がするものを、近くに置いてあげるのもよい方法です。

無駄吠えのしつけをする前に何故鳴いているのかな？と一度考え直してみてはいかがですか？意外と飼い主さんのほうにも原因があることが多いのです。

### 咬みつきをさせないためのしつけ

#### あま嗜み

人と犬がじゃれ合って遊ぶ場合に注意しなければいけないことは、特に子犬のころには、遊びの中で必ずどちらが強いかという【順位性】を本能的に示し、じゃれて手や足または服や靴などに噛みついで、優位支配性を現してくるようになることです。

子犬の時期にあま嗜みを許されていると、その犬が成犬になった頃には『人に咬みついてもいいんだ』という犬になってしまうでしょう。

『子犬の頃は良くて成犬になってからはいけないことなんだ』というふうに犬は考えることができません。

もしあなたの子犬が、ふざけて噛みついてきたなら一瞬だけ叱って、噛みつきをやめたなら、すぐに撫でて誉めてあげると良いでしょう。

または、『イタイ』と言って不快感を表情に出してから無視してしまう方法もあります。

このような飼い主さんの繰り返しの接し方によって、子犬は、人に遊んでもらうためには、【不用意に噛みついてはいけないんだ】ということを学んでゆきます。

ほとんどの子犬は、何かを噛みたがるので、噛んでも良いおもちゃを与えることも必要になります。噛んではいけない物を噛もうとしたら、『ノー』『ダメ』と言って取り上げてしまいましょう。その代わりすぐに噛んでもいいおもちゃを与えて、よく誉めてあげましょう。

そしてそのおもちゃも遊び飽きた頃を見計らって必ず片づけるよう心がけてください。(出しっぱなしは好ましくありません)